



寒い季節になりましたね。今回は、冬本番に向けて、愛犬との暮らしの注意点ををまとめてみました。

玄関・勝手口の締め忘れ

年末年始の気忙しいこの時期、人の出入りも激しくなります。そこで注意したいことは家の玄関や勝手口などの閉め忘れです。ひと段落着いて気がついたら「ペットがいない!!」などです。

ペットと暮らしていない方にとっては、意外と気にしないものですが、飼い主さんも荷物を出し入れしたりしていると、「うっかり」ということがあります。

また車の乗り降りの際、ドアを開けるときに犬が先に飛び降り、走行中の車に轢かれたり、走り去って迷子になってしまったりという事故がよく起きてしまいます。ドアを開ける前に必ずリードを付けることを忘れないでほしいものです。

冬も安心できないノミ・ダニ

ダニが活動できる温度は15℃以上、蚊が活動できる温度は22℃～31℃といわれています。今の家屋は気密性が高い上、エアコンなどで温度も調整でき、ノミ・ダニにとっても、非常に生活しやすい環境です。

「冬だから……」と安心せず、締め切って高湿度、高温度にならないようにすることや、掃除を怠らないように注意しましょう。

床近くの温度は大丈夫?

「犬は寒さに強い」といわれていますが、今の犬たちの生活は室内飼育が多く、寒さにはかなり弱くなっています。室温計を犬の生活範囲の床に近い場所に置いてみましょう。暖かな空気は上にあがり、床近くは低温の場合があります。

毛布を敷いたり、ケージやベッドの下にスノコを敷いてあげても暖かさをキープできます。

水分摂取を忘れずに

寒くなると水を飲みたがらなくなり、泌尿器系の病気になりやすくなります。尿道が長いオス犬の場合は特に気をつけてあげましょう。

寒くても散歩は極力実行!

体内のカルシウムの合成、セロトニンの生産を活性化させるためにも頑張りましょう♥



ブラッシングを忘れずに

冬季、ダブルコートの犬種はさらに被毛の密度が増すので、ブラッシングを怠ると「毛玉」の原因や、空気の流れが悪くなります。

シングルコート、ダブルコートの犬種もともにブラッシングをして、不要な被毛を取り除くことで空気の層が出来、温かさをキープすることができますし、皮膚の血行も良くなり、健康面にもプラスの働きがあります。

服を着せる機会も多くなるけれど……

服を着せることにより、被毛と服との摩擦で「静電気」が発生しやすくなり、犬に原因不明の元気のない症状が出る場合があります。服は長時間着せっぱなしにせず、室内では脱がせておいたほうが良いでしょう。

冬の寒さや乾燥は、私たちにとっても、犬たちにとっても健康上注意点がたくさんありますが、さまざまな工夫や道具を使って、元気に過ごしたいですね。



「愛犬家住宅」づくりのご相談先